

## [第2回]



# 在日アメリカ合衆国大使館 商務担当公使

## アラン・ターリー 氏

### あなたの知らない米国企業・技術 紹介します

アメリカ合衆国（米国）は、日本にとって、経済面でも安全保障面でも、最も重要な国（パートナー）です。

今回、幸運なことに、在日米国大使館の商務担当公使でおられるアラン・ターリー様

（Alan Turley; Minister-Counselor for Commercial Affairs）にインタビューをさせていただく機会を得ました。

ターリー様は、ベテランの外交官で様々な分野に深い造形をお持ちですが、今回は、日米間の経済 이슈に限ってお話を伺いました。

#### 商務担当公使とは

**前野** 本日は、公務が大変お忙しい中、インタビューに応じていただきありがとうございます。はじめに、商務担当公使とはどのようなお仕事をなさるのか、お教えいただけますか。

**ターリー** 商務担当公使とは、在日米国大使館の中で、主に商務省に関連する仕事（商務部）を総括するポストです。したがって、大阪にある米国総領事館の仕事も監督しています。

私の活動の主たる目的は、米国企業と日本企業との間でWIN-WINの関係を築き上げ、日米企業のビジネス交流を活発化させることです。パートナーシップを推進する場面は、日米間の貿易・投資交流にとどまらず、第三国における日米企業の協力も視野に入れています。





まず、米国企業に対しては、日本の市場調査を行うとともに、米国企業の技術、製品及びサービスの紹介を行うことにより、米国製品の対日輸出の促進を図ります。また、米国製品のパートナーになってくださる優れた日本企業を発掘します。加えて、日本企業の米国市場への関心を高めることなどにより、日本企業の米国内への投資の促進も行います。

他方、日本企業に対しても、様々なお手伝いを行います。例えば、米国には、先端的なIT技術やバイオ技術などを有する優秀な企業が数多くあります。こうした企業とパートナーシップを組むことは、日本企業の発展にとって必ずや大きな貢献を果たすものと確信しており、日米企業間の「お見合いの仲人」役を担っています。また、米国市場に進出したいと思うが、どこが適地かわからない、と

いった場合にも、在日米国大使館商務部が親身になってご相談に応じます。些細なことでも構いませんので、お気軽にご相談ください。

新型コロナウイルスの感染拡大のため、日本企業の方と直接お会いできる商談会や日米間のミッションの受け入れが困難になってしまいましたが、現在は、バーチャルな商談会を開催して、日米企業の交流を促進しています。一刻も早く、新型コロナウイルスの問題が解決し、日本企業の方々と普通にお会いできることを祈っています。

## 米国インフラ投資法の成立

**前野** 日本の岸田文雄内閣総理大臣は、「新しい資本主義をめざす」とおっしゃっております。私の理解するところでは、これは「成長と分配の好循環」を目指すもの

であり、「働く人への分配機能の強化」を通じて「格差の是正」を図るものようです。他方、米国のバイデン大統領は、大統領選挙期間中から「Build Back Better」政策を打ち出され、地球温暖化対策への投資等を通じ、雇用を増やし、米国社会の基礎をなす「中流階層」を立て直すとおっしゃっております。お二人の考え方には、共通するところがあるのではないのでしょうか。そうした中で、昨年11月15日に、米国で「インフラ投資法」が成立したとのニュースを見ました。これについて、少しお話しいただけますか。

**ターリー** おっしゃるとおり、米国では、インフラ投資法案が上下両院において超党派で可決され、バイデン大統領が署名して成立しました。これは、成長戦略の一環として、今後5年間にわたり総額1兆ドルのインフラ投資を行おうとするものです。老朽化した鉄道や道路の修復が行われることはもちろん、地球温暖化防止のためのクリーンエネルギーや高速インターネット網の拡充にも大型投資が行われます。上下両院において超党派で可決されたのは、米国にとって不可欠な投資であることが自明の理であるためです。近年稀に見る大規模なインフラ投資計画であり、50年後の米国の環境や、米国人の生活を改善する効果が期待されています。

**前野** 私は、日本でも同様の投資が必要である、と思っております。当協会の会員企業は、インフラ関係のビジネスを行っているところが多いので、特にその思いが強くなります。



テネシー州メンフィス市

## 日米両国の協力の方向 ～政府の動き～

**前野** 先ほどおっしゃられたように、ターリー公使のお仕事は、日米両国のビジネス交流の活発化を図ることだと思います。バイデン政権が発足して以来、日米両政府間の動きが顕著だと思うのですが、いかがでしょうか。

**ターリー** 2021年4月には、バイデン大統領と菅義偉総理大臣（当時）が、ワシントンで日米首脳会談を行い、「新たな時代における日米グローバル・パートナーシップ」と題する日米首脳共同宣言を発出しました。その中身は、非常に広範多岐にわたる複雑な内容であり、一言で申し上げるのは難しいのですが、敢えて申し上げるなら、「世界、特にインド太平洋地域において、日米両国が協力して、自由で公平な貿易体制の構築を目指す」というものです。具体的な政策の中身としては、気候変動、労働問題、ヘルスケア分野などにおいて、広範な日米間の協力のフレームワークが合意されました。

**前野** 2021年11月14日から15日まで、レモンド商務長官が訪日され、松野博一内閣官房長官、林芳正外務大臣及び萩生田光一経済産業大臣と会談されましたね。

**ターリー** はい。レモンド商務長官は、アジア歴訪の最初の国として日本を訪れました。一連の会談では、日米間の経済問題について幅広く議論がなされましたが、特に「サプライチェーンの強靱化」が大きな 이슈となりました。例えば、現在世界的に不足している半導体のサプライチェーンのボトルネックと問題点がどこにあり、透明性と強靱性を

高めるためにはどうしたらいいか、といった点について、議論がなされました。経済安全保障という面から見て、半導体のような重要物資については、特定の国や企業に依存しすぎることは望ましくありません。

**前野** 日本は、地球温暖化防止のため、太陽光発電を積極的に導入しているのですが、太陽光パネルはほとんどが中国製です。

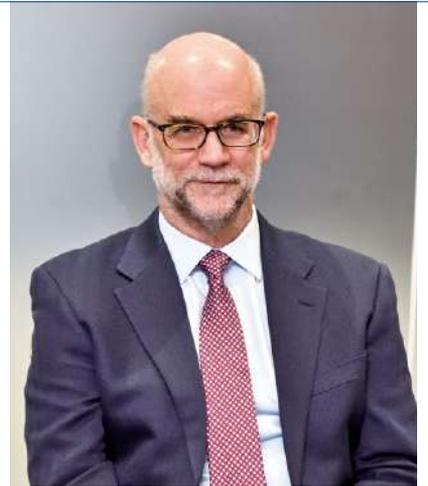
**ターリー** 確かに現在は、太陽光パネルはほとんど中国製ですが、10年後、20年後を見据えて適切な政策をとっていけば、米国や日本、欧州等からも有力なサプライヤーが出てくるものと思います。

**前野** サプライチェーン以外には、どのような話がなされたのでしょうか。

**ターリー** 国際標準についても議論がなされました。例えば、5Gにおいて、特定の国や企業に有利な標準は望ましくなく、オープンでインクルーシブな国際標準を作るために、日米が協力していくことが合意されました。その他、グリーンテクノロジーや新産業の創造、輸出管理、個人情報データの越境移転等の課題についても、日米間で協力していくこととなりました。

## 日本企業の抱える 課題と解決策

**前野** ここで、話題を変えて、今後日本企業が成長していくためには、どうすべきか、といった話をしたいと思います。ターリー公使から何かご示唆はありますか。例えば、日本企業の問題点としてよく言われることは、「決断が遅い」といったことです。



Alan Turley (アラン ターリー)

在京大使館と大阪総領事館にて商務部門に従事する36名の職員の責任者。対日輸出と対米投資を促進し、通商政策における商務省幹部等への助言が主要任務。東京駐在は1986年、2000年に続き三度目。台湾で中国語を学び、同地の米国在台湾協会(AIT)で商務担当参事官、北京大使館で商務担当公使などを歴任。前職はワシントンの商務省国際貿易局(ITA)で商務次官補代理(中国・モンゴル担当)。

**ターリー** 日本企業の皆様は大変な努力をなさっておられ、私がアドバイスするような立場でもないのですが、例えば今おっしゃった「決断の遅さ」について、そう感じることはありますが、一旦決断がなされれば、速やかに実行に移されることも事実です。私の個人的な意見ですが、「日本企業は、もっと経営幹部に外国人や女性など、多様な人材を登用するべきだ」と思います。日本企業が海外でビジネスを行う場合、海外の様々なパートナーと長期的な信頼関係を構築することが不可欠です。そのためには、「日本人男性以外の人の発想」を入れて、戦略的な意思決定をすることが重要だと思います。また、これは些細なことかもしれませんが、例えば、



日本の企業や団体の中には未だにFAXが使われているところがあります。インターネット時代には、もっと適切なコミュニケーションツールがあるのではないのでしょうか。

## 日本の魅力、米国の魅力

**前野** ここで、ターリー公使の個人的なお話を少しお聞かせいただきたいと思います。日本について、どのような印象をお持ちですか。

**ターリー** 私が初めて日本を訪れたのは1986年のことであり、日本とはかなり深くお付き合いをしていると思います。素晴らしい日本人、特有の歴史、美術、工芸、文学など、全て私を魅了するものです。特に私は山歩きが好きで、時間があれば、軽井沢周辺の山道を散策します。また、日本食ですが、私は何でもいただきます。納豆が食べられない、という日本人もおられるようですが、私は納豆

も食べられます。是非食べたい、というものではありませんが。

**前野** 次に、日本人に知ってもらいたい米国の魅力は何でしょうか。多くの日本人は、ハリウッド映画を見たり、ディズニーランドに行ったりして、米国のことをわかったような気になっていますが。

**ターリー** まずは、米国人のfriendliness（親切、好意、親善）や心の温かさを知っていただきたいです。ニューヨークとロサンゼルスだけが米国ではありません。日本人があまり訪れないテネシー州などにもお越しただければ、米国人の「人の好きさ」に触れていただけたと思います。また、ロッキー山脈をはじめとして、米国には、雄大で美しい自然があります。新型コロナウイルス感染が落ち着いたら、是非日本の方々に時間をとっていただき、訪れていただければと思います。

**前野** 本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。



## インタビュー後記

米国大使館の公使にインタビューを申し込んだ際、正直に言って、当協会のような小さな団体は相手にされないのではないか、と危惧しておりました。ところが、公務お忙しい中、時間をとって対応していただきました。私に英語力がもう少しあれば、更に深い話を伺えたものと思ひ、残念です。

ターリー公使は、中国語が堪能で、漢字の読み書きもなさるとのことです。日本語の得意な外国人は、過去何人かお会いしましたが、「しゃべったり聞いたりするのは得意だが、漢字は苦手」という方がほとんどでした。「音読みと訓読みという日本語独自の言語体系は、日本語に複雑さと深みを与えている。」とおっしゃるターリー公使は、言語学の大学教授にもなれるのではないか、と思いました。

当協会専務理事  
前野 陽一



### 大使館データ

大使館名：在日米国大使館  
所在地：港区赤坂1-10-5  
ホームページ：<https://www.trade.gov/buyusa-japan>

